

校長室より

第32号

「天空高き」



平成24年3月10日

東日本大震災から1年経過して一我々はいかに生きるべきかー

いつも頭の片隅に3.11の東日本大震災があります。復旧、復興が政治の混迷で思うように進んでいません。今なお不自由な生活を強いられている方々がたくさんおられます。

一般、山口県公立、私立の校長会があり、その席上で「フクシマの高校生はこれからの日本を背負う人材になる」という言葉が強烈に残っています。

彼らは震災と放射線という見えない恐怖と闘いながら、不満や愚痴を口にしても何の力にもならない。今できることからやる。また、将来自分が、何をしたいから、自分は何をすべきか、何が出来るのか、という価値観に変わりはじめています。

現状に不満を漏らすことなく、何のために学び、自分の力を、どう社会に生かすことが出来るのか、自問自答しながら、常にポジティブに前を向いて歩いているフクシマの高校生にエールを送るとともに、我々も今の生活の在り方自体を自問自答して、襟を正して今の学校生活を送って行きたいと思えます。



『女学生』 伊藤清先生作
本校に在籍された元美術教師

前へ

大木実

少年の日読んだ「家なき子」の物語の結^{むす}びは、こういう言葉で終わっている。

ー前へ。

僕はこの言葉が好きだ。

物語は終わっても、僕らの人生は終わらない。

僕らの人生の不幸は終わりが無い。

希望を失わず、つねに前へ進んでいく、物語のなかの少年ルミよ、

僕はあの健^{けなげ}気なルミが好きだ。

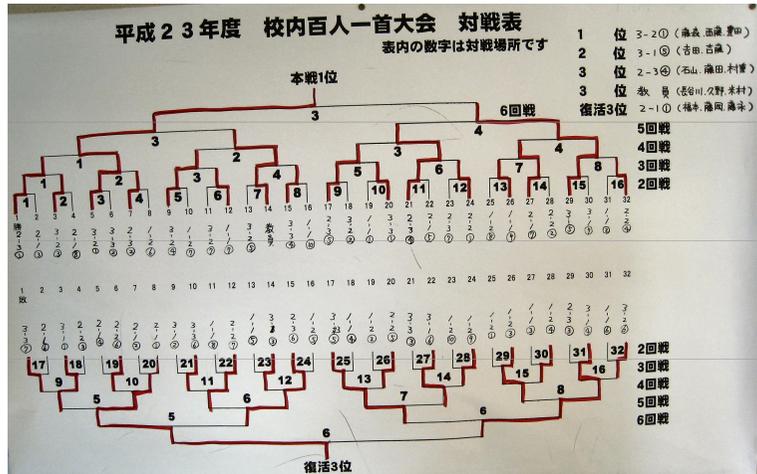
辛い^{いや}こと、厭な^{いや}こと、哀しいこと、出合うたび、僕は弱い自分を励ます。

ー前へ。

百人一首大会

全校生徒が参加して、節目となる45回大会を体育館で行いました。

生徒は2・3人の64チームに分かれ、教員チームも参加して、自チームの前に並べた50枚の取り札が早くなくなれば勝ち、となる源平式でトーナメント戦を行いました。



決勝戦は、連覇をねらう3年1組の吉田・吉藤組とそれを阻止しようとする同じ組の藤森・西藤・豊田組の戦いでした。

上の句が読まれると札の争奪が始まる、ハイレベルの白熱した勝負でした。最後は人数の多い方が勝敗の決め手となり、見事、藤森・西藤・豊田組が初優勝しました。敗れはしましたが、前年度覇者にも健闘を讃えたいと思います。

カルタ大会は日本独自の優雅な競技ですが、実際はスポーツと同じで、技術と体力・精神力をベースに戦術が不可欠です。今回下記の上位チームの皆さんは、日々、地道な練習を積んできたからこそ、今回の荣誉に輝いたと思います。本当におめでとうございます。

大会の時にも同じ話をしましたが、この大会は皆さんが卒業してからその良さに気がきます。カルタ大会に勝つためにただ丸暗記した句でも、年齢を重ね、ふと何気ないときにその句を口ずさむ時があります。私の場合は「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬもあふ坂の関」(蝉丸)でした。

皆さんが、その至福の時を迎えるのは、いつ頃になるのでしょうか。上位入賞チームは次の通りです。

- 【優勝】3年2組 藤森雄大、西藤志帆、豊田ののか
- 【準優勝】3年1組 吉田侑城、吉藤裕作
- 【3位】2年3組 石山恵然、藤田正幸、村重律樹
- 2年1組 福本晃也、藤岡優、藤永雄也 教員チーム 長谷川傑、久野陽一、米村英恵



書き初め大会

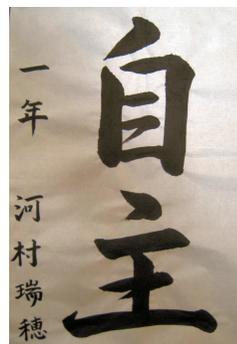
毛筆でサラサラと書ければ、できたら、^{ゆうこん}雄渾な文字が書ければ、と一念発起、ある書道塾に週1回通い始めました。

まず、先生に手本を書いていただき、文字の形や字画の書き方を練習します。点やはらい、はねなどぐっと力を抜いていく方法など手首で書くのではなく身体全体で書いていきます。何十枚か書いた後は、先生に朱筆で直していただきます。しかし、先生に見てもらう前に、自宅で何日か練習します。結構な時間書きます。少しずつ上達が実感できるようになると、練習に楽しさが加わります。いつか皆さん披露出来たらと思います。

今回、最優秀の3名の作品は、その人の性格や人となりをよく現していると思います。「書は人なり」とか「書は^{たい}体をあらわす」と言いますが、まさに的を射ていますね。

平成23年度書き初め大会成績

最優秀1年 河村瑞穂 2年 山本佳美 3年 好中奈々子
優 秀1年 川野優、星野萌々香 2年 長沼優花、
那須浩子 3年 佐崎加南子、森本百華
優 良1年 山本咲妃、佐崎元子、西野大哉
2年 福本晃也、藤永雄也、石山恵然
3年 下小鶴静、藤中香奈枝、村田美来



山口から全国、アジアへ

運動部では柔道部男子（東京都）・空手道部男子（岡山市）・ハンドボール部女子（花巻市）が選抜大会に出場します。おめでとうございます。全国という大きな舞台上、日頃の練習の成果を存分に発揮してください。

また、日本と台湾の文化交流促進を目指す「日台文化交流 青少年スカラシップ」（フジサンケイ ビジネスアイと産経新聞社）に、六年制普通科2年浦崎笑子さんが選ばれました。浦崎さんは、山口県内に在住または在学する青少年を友好都市中国山東省に派遣する「山東省青少年友好の旅」（山口県国際交流協会、5名募集）にも、六年制普通科1年重田真輝さんと共に参加します。大役を果たしてきてもらいたいと思います。

